

チョウゲンボウ（ハヤブサ科） 全長35センチ

川沿いや海岸、山地の断崖で繁殖する習性を持つが、近年は人工構造物を利用して子育てするなど、市街地でも観察されることが多くなってきました。

美郷町の仙南小学校では、校舎の外側に設置された排気ダクトを使い子育てしています。この場所は昨年初めて使用し、ヒナが何羽か地面に落ちてしまったそうだ。職員が見つけたダンボール箱に入れ2階の屋上に置いていたところ、親がしっかりと餌を運び、無事に5羽が巣立っていったそうです。

今年も4月頃飛来し、同じ排気ダクトで繁殖を始めました。校長先生から許可をもらい、子育ての観察を続けることにしました。



排気ダクトの中で。

5月15日、ダクトの中から可愛い雛の姿が確認された。

職員の話では5羽が孵っているようだが、3羽しか見つかりません。27日にお邪魔すると、5羽とも元気に巣立っていったそうだ。

3階校舎の屋根や軒下に並び、親が運んでくる餌を待っているのでしょうか。もう親と同じ位に大きくなっています。



巣立ってまもなくでしょう。3階の屋根の下に並んでいた。



親が来たのか、じ〜と見つめている。

大空を自由に飛び回るようですが、屋根に着地するタイミング等はまだぎこちなく、滑って転びそうになったりです。

今頃は親の後を追いかけてながら、餌の取り方などを学んでいることでしょう。行動範囲も徐々に広くなり、学校周辺から見つけることは出来なくなったようです。



巣立ち後のヒナの羽は、メス親と同じ模様である。



5羽が巣立ったようだが、並んでいるのはいつも3羽でした。